

河川護岸、港湾護岸、漁港岸壁

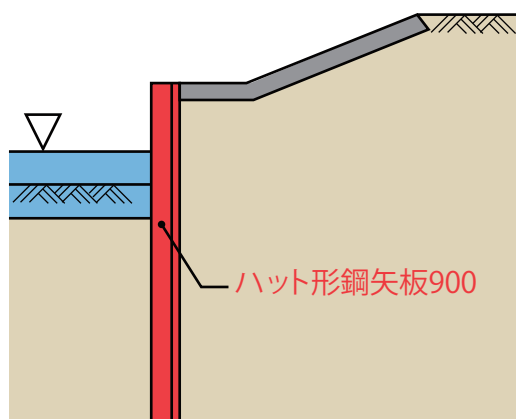
ハット形鋼矢板 900 は、水際での施工に適し、急速施工が可能であり、また、根入れ式構造であるため軟弱地盤への適用性が高く、経済的な河川護岸を建設できます。

従来の広幅型鋼矢板に比べて、単位壁面積あたりの鋼材重量が低減でき、かつ施工枚数は 2 / 3 となるため、工事費縮減・工期短縮を可能とします。また、U形鋼矢板では継手効率を向上させるために必要であった頭部のコンクリートコーピングをハット形鋼矢板では省略でき、工事費削減、工期短縮が可能となります。

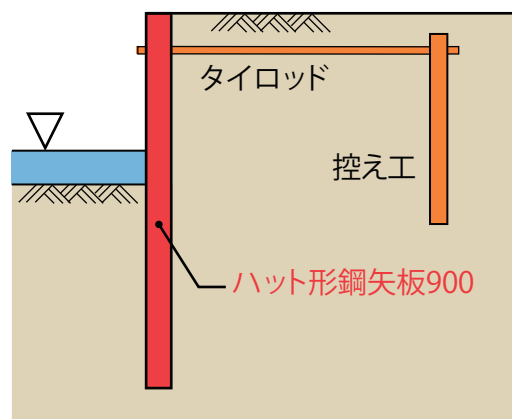
ハット形鋼矢板 900 はコンクリートパネル等により周辺環境に調和した景観を実現できます。

護岸の構造適用例

自立式護岸



タイロッド式護岸



コンクリートパネルによる景観対応例



調節池、調整池、基盤漏水対策

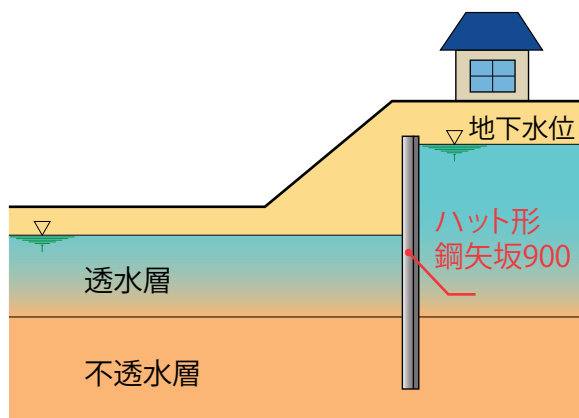
1) 調整池の止水対策：台風や集中豪雨の際に、雨水を一時的に貯留し、河川や水路の急激な水位上昇を抑制するための施設として、調整池が設置されます。

ハット形鋼矢板 900 は、このような調整池における止水壁として有効です。調整池の周辺土中部に設置することで、景観に影響を与えることなく止水壁を形成できると共に、従来の工法に比べ工期短縮・経済性の向上が図れます。

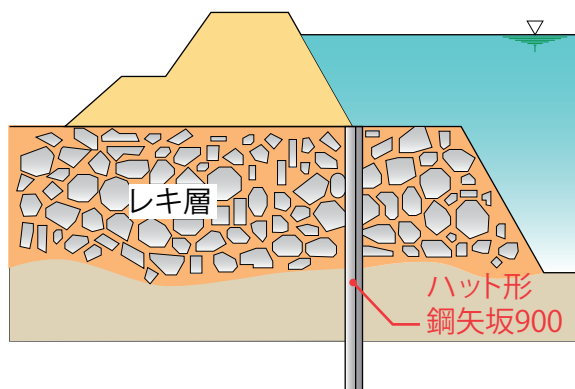
2) 河川堤防の基盤漏水対策：堤防直下に透水性の高い砂層またはレキ層がある場合、洪水時に浸透水が透水層を通り、堤内側法尻付近から漏水することがあります。これは、基盤漏水としてよく知られる現象であり、その対策として、鋼矢板などを用いた止水壁が築造されることが一般的です。ハット形鋼矢板 900 は、従来の鋼矢板に比べて、経済性に優れた止水壁を築造することが可能であり、河川堤防の基盤漏水対策として極めて有効です。

止水壁の適用例

調整池の止水対策



河川堤防の基盤漏水対策



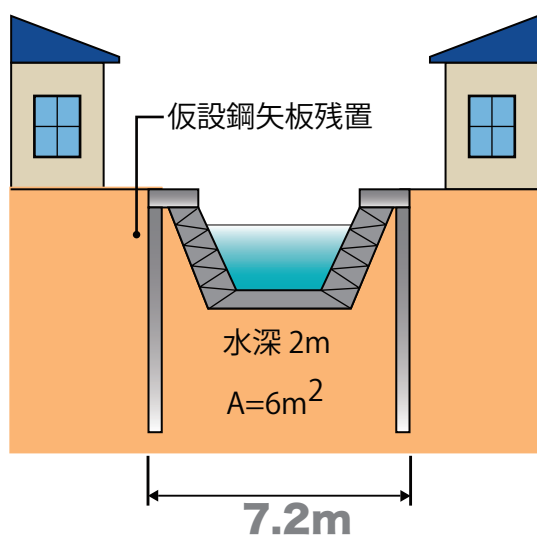
下水開きよ、農業用排水路

水路の新設・拡幅工事において、以下のような条件ではハット形鋼矢板 900 を用いた自立式護岸が最も経済的です。

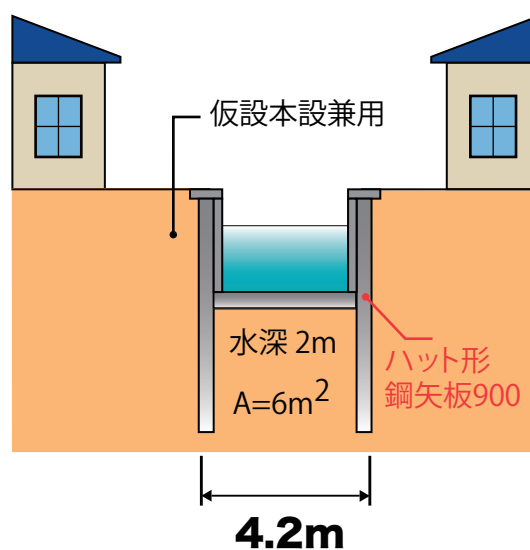
- 1) 住宅密集地など、仮設鋼矢板が残置される場合
- 2) 施エスペースに制約があり、従来工法では水路の新設、拡幅が困難な場合

水路の適用例

コンクリートブロック護岸



ハット形鋼矢板護岸



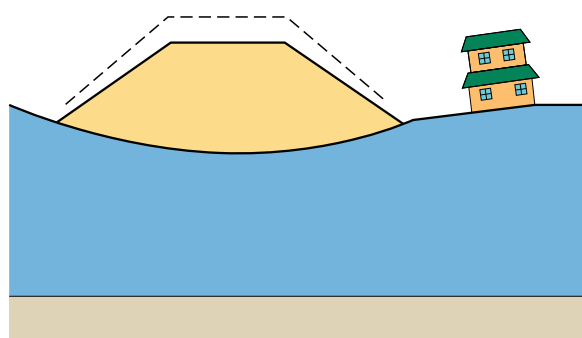
道路盛土、河川堤防、鉄道盛土、宅地造成盛土

軟弱地盤上で道路盛土、河川堤防等を新設・嵩上げを行う際、圧密沈下による周辺地盤の沈下が問題となります。鋼矢板を用いた対策工法は地下水汚染の恐れがなく、特に軟弱層が深い場合には経済的な対策工法となります。

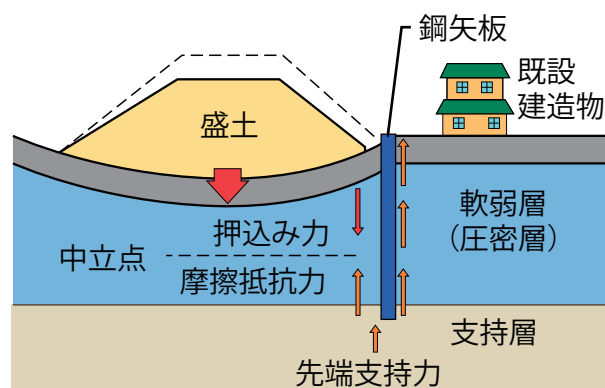
沈下対策では、鋼材断面は作用荷重ではなく、施工性で決定される場合が多いので、長尺施工に適したハット形鋼矢板 900 を用いることにより従来より低い剛性の型式で施工が可能となり、経済的な対策工法となります。

沈下対策工法の適用例

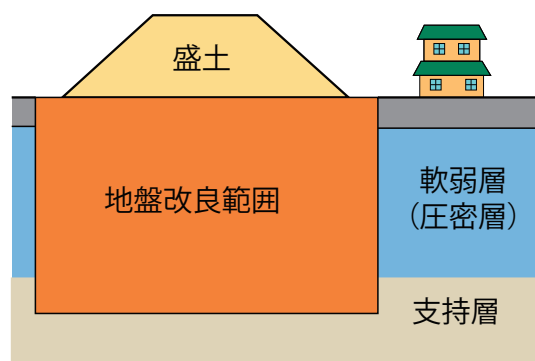
無対策



ハット形鋼矢板900による対策



地盤改良による対策



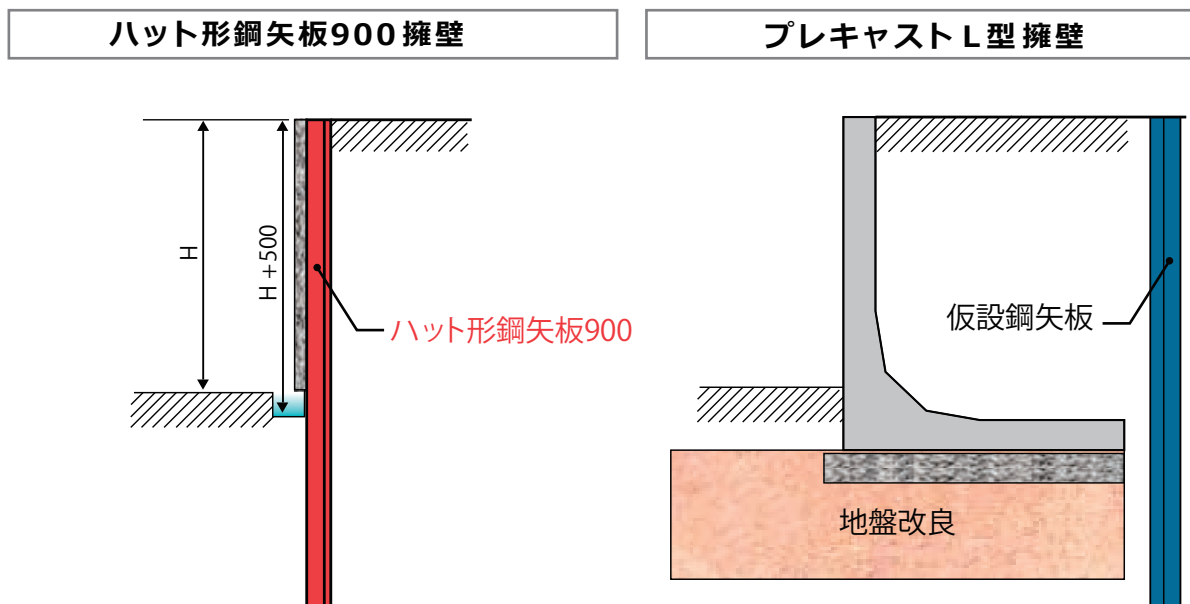
道路擁壁、宅造擁壁、住宅擁壁

ハット形鋼矢板 900 は以下のような条件では最も経済的な擁壁構造です。

- 1) 切土施工で仮設鋼矢板が必要
- 2) 基礎地盤が軟弱で置換、地盤改良が必要
- 3) 後背地に制約があり、L型擁壁の設置が困難

ハット形鋼矢板 900 はU形鋼矢板と同様に、コンクリートパネル、塗装、場所打ちコンクリートにより化粧することにより周辺環境に調和した景観に対応できます。

擁壁の適用例



場所打ちコンクリートによる景観対応例

